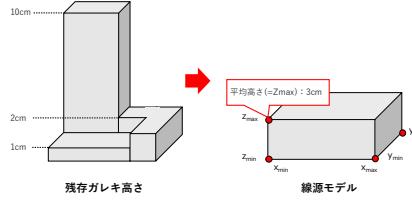
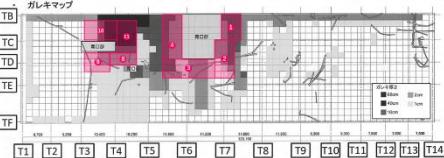
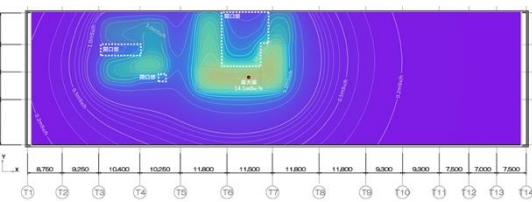


場 所		分 類		被ばく低減対策好事例集									
原子炉建屋内	R B	T B 4	1 時間	番号 02-05									
タービン建屋内	T B		2 距離										
R ZONE	R		3 遮へい										
Y ZONE	Y		4 線源の除去										
G ZONE	G		5 遠隔、饽ット化										
その他	Z		6 汚染拡大防止										
()			7 その他										
内 容		作業エリアの高線量ガレキ撤去後の空間線量率シミュレーション											
作業場所		3号機タービン建屋屋上											
概 略		3号機T/B屋上ではガレキ撤去後に防水工事を行う。防水工事計画で必要な作業エリアの空間線量率をシミュレーションで求めた。											
評 価 (定性・定量)	効 果	対策前		対策後									
		被ばく線量(mSv)		—									
		人工数(人日)		—									
事例詳細													
<p>■概要説明</p> <p>3号機T/B屋上ではガレキ撤去後に防水工事を行う。防水工事計画では作業場所の空間線量率の把握が必要である。開口部周囲には汚染ガレキが残る可能性も考えられたため、シミュレーションで空間線量率を計算した。</p>													
<p>■シミュレーションの詳細</p> <p>点減衰核法計算コードQAD-CGGP2Rを使用した。屋上部を2mメッシュ分割し、開口部周囲に残存ガレキ領域を設定。ガレキ高さを平均化し線源モデルとした。残存ガレキの放射能は、各領域の面積・平均高さより作成した線源モデルに対し、各領域の平均空間線量率となるよう規格化し放射能を作成した。簡易化のため隣接領域の影響はないものとした。各領域の平均空間線量率は過去の空間線量率マップとグリッド・領域を重ね合わせ面積比から按分で求めた。</p>													
<p>■導入効果</p> <p>計算結果に基づき防水工事計画を行った。ガレキ撤去後の実際の空間線量率はシミュレーションの1/4程に低減した。簡易な手法で安全側の評価が短時間で得られるシミュレーションは作業計画に有効である。</p>													
 <p>残存ガレキ高さの平均化線源モデル</p>  <p>残存ガレキ領域線源モデル（着部）</p>  <p>空間線量率シミュレーション結果</p>													